

## 「ヤマガタ 2030 を語る会」(次期総合計画策定に向けた若者との意見交換会) 実施状況

## 目的・趣旨

- 次期総合計画に盛り込む各種施策に若者の意見を反映させるため、学生や若手経済人等とのワークショップやミーティングを実施。(県公式 facebook により随時情報発信)
- 意見交換を契機として、これからの県づくりを若者が自らの問題として考え、個々人の主体的・具体的な活動に繋げていくことをねらいとする。
- 意見交換全体の共通テーマを「ヤマガタ 2030 を語る会 ～ 10年後の自分を思い描いて～」として設定。

ヤマガタ  
2030  
を語る会  
公式 facebook



## 開催実績

- 高校生・大学生・社会人グループと事務局若手職員(県企画振興部)との意見交換を、ワークショップ形式や座談会形式で開催。事務局が若者の意見を記録。
- 県外進学・就職者の回帰だけでなく、移住促進、関係人口の創出といった県外在住者との多様な関わりが重要となっていることから、県外在住の若者も対象として実施。

県内高校生：7回 75人、県内外大学生：5回 107人、県内社会人 7回 52人  
合計19回 234人 ⇒**答申に向け、県外社会人などを対象に、今後も継続して開催予定**



県内社会人(夏季帰省中の首都圏在住者含む)



鶴岡中央高校



育英会東京学生寮

月日	相手方・人数
7月18日	寒河江高校 2年生 4名
7月24日	東桜学館高校 2年生 3名
8月1日	山形西高校 2年生 3名
8月10日	県内社会人等 16名
9月9日	新潟大学経済学部 2・3年生 17名
9月11日	鶴岡中央高校 3年生 17名
9月20日	山形北高校 1年生 17名
10月4日	農林水産実践者(村山地域) 6名
10月8日	農林水産実践者(庄内地域) 4名
10月15日	東北公益文科大学 1・2年生 38名
10月18日	農林水産実践者(最上地域) 6名
10月18日	新庄南高校 1～3年生 15名
10月24日	山形青年会議所 11名
10月25日	育英会東京学生寮 17名
10月29日	農林水産実践者(置賜地域) 4名
10月31日	山形商業高校生「産調ガールズ」 16名
11月5日	山形大学 3・4年生 16名
11月6日	地域おこし協力隊 5名
11月7日	東北芸術工科大学 1～4年生 19名

※ 県内高校生との意見交換会については、探究型学習の一環として実施

## 意見交換内容

- ワorkshop等の基本的な流れは次のとおり。(相手方に応じて一部または全部を実施)
  - ① 今後の社会環境の変化を考える ⇒ ② 10年間の自らのライフプランを考える ⇒ ③ ライフプラン実現に向けた山形の強みや弱み・将来への期待や不安を考える ⇒ ④ ライフプランが実現する山形であるために取り組むべきこと(自らの取組みも含む)を考える ⇒ ⑤ 山形の将来像を考える
- 上記のうち、③若者が考える山形の「強み・弱み」「将来への期待・不安」は下表のとおり。
- ④に関する意見、⑤の将来像については次ページを参照。

(件：キーワードによって分類)

## 山形の強み

・食べ物や食文化	81 (23%)
・自然環境	68 (19%)
・暮らしのゆとり	41 (11%)
・人の優しさ、つながり	34 (9%)
・面白い人や企業、取組みがある	22 (6%)
・災害の少なさ	20 (6%)
・伝統文化・工芸	17 (5%)
・子育てしやすさ	16 (4%)

## 山形の弱み

・娯楽商業施設やイベントの少なさ	69 (22%)
・交通の便の悪さ	46 (14%)
・情報発信力の弱さ	35 (11%)
・若者の県外流出、少子高齢化	31 (10%)
・内向き文化、挑戦できない雰囲気	24 (8%)
・仕事や働き方の選択肢の少なさ	15 (5%)
・所得の低さ	14 (4%)
・進学先など学びの選択肢が少ない	10 (3%)

若者の将来のライフプランの実現に向け、若者が感じる  
山形の「強み・弱み」と「将来への期待・不安」

## 将来への期待

・暮らしの魅力の発信	33 (20%)
・食を活かした地域振興	21 (13%)
・観光誘客への期待	18 (11%)
・農業の更なる発展	17 (10%)
・自然資源の活用	10 (6%)
・若者の集う場所・機会の創出	8 (5%)
・更なる魅力の掘起しと発信	8 (5%)

## 将来への不安

・過疎化や都市の衰退	40 (21%)
・少子高齢化	40 (21%)
・若者の県外流出	17 (9%)
・人口減少への漠然とした不安	16 (8%)
・伝統文化の継承の危機	8 (4%)
・働く場の減少	8 (4%)
・担い手不足による農業の衰退	6 (3%)

## 主な意見の例とその反映

### (1) 次代を担い地域を支える人材の育成・確保

- ・山形の良さを他県の人に発信するためには、山形暮らしの経験者を何らかの形で外に出すことも必要。(関係人口という形で応援してくる人を増やす)
- ・高校生のうちに、山形にどんな就職先があるか知りたい。高校卒業後大学進学者が多い高校でも、学校で教えてほしい。
- ・地域密着型の教育を充実させ、地元の先進的な企業を見学して、キャリアについて考える機会をもつ。
- ・県外就職して何年か働いてから地元に戻って活躍したいと思っている人が多くいるので、そういう考えの人を長い目でみて、受け入れる環境がほしい。
- ・地元に戻って就職したいと思うが、それだけの価値や魅力をもっと見せてほしい。Uターン就職への支援が少ない。又は知らないので大々的に発信すべき。

### (2) 県民の希望の実現・総活躍

- ・子育てしやすい環境をつくり、女性も仕事に集中できるようにする。加えて、家政婦やベビーシッターなどの仕事も充実させる。
- ・(若者交流の) イベントの開催は良いと思う。同世代同士の横のつながりが強くなり、その後に縦のつながりとして世代を超えた関係が生まれてくると思う。面白いことを企画している人同士が集ってコミュニケーションが取れる場所があっても良いと思う。現在は当人同士にお任せというか、何の仕組みもない。
- ・転職やフリーランスに対する認知がまだない。10年後の山形は、色々な仕事ができ、自分らしい働き方、生き方ができる社会になっていけばいい。

### (3) 本県の強みを活かし高い付加価値を創出する産業経済の振興・活性化

- ・近年若い人が食を目当てに旅行するのを多く目にするので、山形でしか食べられないものをアピールし、食を通じて山形の他の魅力を知ってもらおう。
- ・スポーツ実業団をいくつか作る。→合宿などがしやすいため選手にとってよい環境である。→スポーツで有名になれば他県からも学生がくるかも。
- ・一般人からの投資をしやすいプラットフォームをつくる(クラウドファンディングの活用もあり)

### (4) 県民が安全・安心を実感できる社会づくり

- ・昔は当たり前だった三世同居はこれからますます減っていくので、様々な世代の人が交流できる機会を意識的に創っていくことが必要。
- ・食と健康を絡めて、多くの人々に食に興味をもってもらおう。特産品をつかった料理で健康メニューをつくる。
- ・高齢者が元気でいられるような企画づくりが必要。(→スポーツサークル、働くことなど)

### (5) 未来に向けた発展基盤の形成

- ・若者が住みやすい町づくりをして欲しい。(イベント施設や広場など世代を超えて集える場、商業・娯楽施設・運動施設など遊ぶ場)
- ・高齢者の方の移動手段を増やし、人々が生活しやすい環境をつくれれば、自然が豊かで食べ物がおいしい山形に人は住みたくなると思う。
- ・酒田祭りなどの長い間続いている伝統のお祭りをこれからも続けて欲しい。最近担い手が減少している和太鼓などの伝統芸能を保護して欲しい。
- ・交通機関を増やし、都市、隣県とのアクセスを増やす。
- ・開発を重ねていくのではなく、今の都市機能の中で文化的なモノやコト、つながりを維持して行ってほしい。人口減少はどうしても止まらない流れにあると思う。そのため、そういった人材や社会システムを補うために、先進的な技術を取り入れることもいいと思う。

意見数全 353 件をキーワードから施策単位で分類し、中間報告案の5つの政策の柱ごとに主な意見を抽出  
⇒ 中間報告案における施策検討に反映

- ①暮らしの魅力を発信し人を惹きつける 42
- ②地域への理解・愛着の醸成 37
- ③県内就業の促進策の強化(Uターン就職の受入支援の充実など) 17

- ①子育て環境の充実 22
- ②地域を盛り上げたいと考える若者が交流し仲間をつくる場や機会づくり 22
- ③柔軟で働きやすい職場環境づくり 11

- ①文化や自然を活かした観光誘客 39
- ②音楽フェス等のイベント企画の充実 12
- ③先端技術の活用等による収益性の高い農林水産モデルの普及 6

- ①世代を超えた人と人のつながりの強化(地域コミュニティの再生) 11
- ②スポーツや社会参加による高齢者の健康づくりの推進 4

- ①若者に魅力的な活気あるまちづくり 17
- ②電車やバスなど地域交通の充実 9
- ③祭りなどの文化資産の継承 9

など

など

など

など

など

## 若者が描く10年後の山形の将来像

- ・日本を代表する新しいムーブメントの発信地
- ・女性もバリバリ働けて、男性と対等に意見を言い合える県
- ・幸福度ランキングトップの県
- ・新しいチャレンジがつつぎと生まれている県
- ・若者がたくさんいるグローバルで活気がある県
- ・若者からお年寄りまでが活躍できる笑顔の絶えない県
- ・魅力を上手に発信して、中からも外からも愛される県 など

- 参加者それぞれに、自らの希望がかなう県としての2030年の山形の将来像を聴取し、左記のような意見が出された。(一例)
- キーワードの抽出、将来像のイメージによる分類を行った結果、傾向としては下記のとおりであった。

#### 【将来像に含まれるキーワードが多かったもの】

活気、楽しい、若者、自然、日本一、地元愛、食、幸福、高齢者も若者も、暮らし、観光、つながり、ふるさと、女性も男性も、笑顔、魅力、豊かさ

#### 【将来像のイメージとして多かったもの】

- ①活気や楽しさがあり、新しいチャレンジによって発展していくイメージ
- ②暮らしの質が高く、幸せを実感できる県としてのイメージ
- ③自然や文化が大事にされ、故郷の誇りが継承されていくイメージ
- ④多様な価値観が尊重され、多様な自己実現が叶う県としてのイメージ